

2024 年 7 月 19 日

「アマチュア無線の魅力向上アイデア」提案書

1. 提案者
 - ・氏名：松田 晃
 - ・年齢：
 - ・コールサイン（局免許保有者の場合）：JL1AXJ
 - ・連絡先 住 所：
 - メール：
2. 提案カテゴリー（AまたはBを選択）

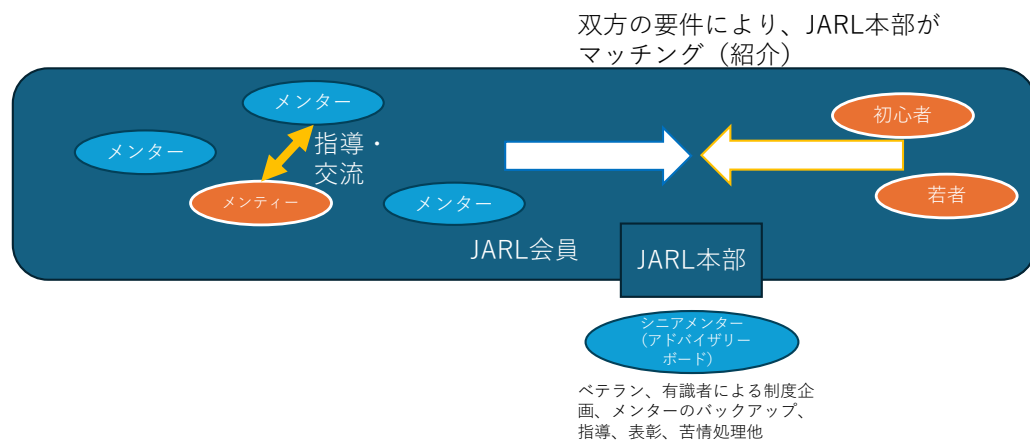
A 既に開局している若者や初心者にとっての魅力を一層高めるアイデア
3. アイディア名：

メンター・メンティー制度の創設
4. アイディアの概要（200 字以内）：
 - ・ マ無線人口の減少などにより、新たに開局した人にとっては身近に相談、また交信相手となってくれる OM を探す、巡り合うことが難しくなっている。全国組織である JARL の会員ネットワークを活かし、新たなメンバーと OM のマッチングシステムを構築、当初から安心してアマ無線を楽しめる環境を作る。立ち上げ期間は概ね 2024 年内開始を目指す。
5. 詳細説明（図表を含めて 4 頁以内）：
 - 1 背景

かつては学校や児童館のクラブ局、近隣に建っているアンテナや JARL 門標、さらには局名録などから、近所の同好の士、先輩ハムを見つけること、教を乞う機会があった。しかし、今せっきやく従事者免許を取りアマ無線を始めようとしても、近隣にどのような局があり、先輩がいるのかを知ることはさまざまな理由により容易ではない。

また、入門者にとって手の出しやすい 144MHz/430MHz のハンディ機を購入しても、タイミングや場所に恵まれなければ「何も聞こえない」、相手が見つからず初交信すらできないことも容易に起きうる。一方で、極めてわずかではあるが初心者に対して過度に厳しく接する OM もあり、SNS などで情報を集めても「ハムは怖い」といったイメージを持つ例も耳にする。以下提案する「メンター・メンティー制度」の創設により、若者や初心者が当初から安心してアマ無線を楽しみ、生涯の趣味とする一助としたい。
 - 2 施策の骨子
 - ・ JARL 会員から、後輩アマ無線家に親身に相談に乗り、交信体験や局の立ち上げ、運用ノウハウの伝授など育成に携わる「メンター」を募り組織化する。

- ・ 各メンターの要件（対応可能な地域、活動の種類、得意分野など）をあらかじめ申請、登録して DB 化する。
- ・ 若者や初心者で、JARL に登録した会員のうち希望者については、JARL がこの希望者と条件に合うメンターをマッチングして紹介（仲介）する
- ・ メンターは紹介された会員の要望に応じ、相談や交信相手、他局への紹介、運用ノウハウの伝授、上級資格やモールス技能指導などの支援を提供する
- ・ メンター・メンティーの関係は双方が希望する限り永続するが、「メンティーが一人前になる」ことをもって制度的には卒業とする（概ね半年から1年を想定する）。
- ・ メンター活動は無償ボランティアとするが、活動実績や評価によって JARL から感謝状、表彰などのリワードを想定する



制度・活動の概要

3 想定される効果

《初心者・若年層への魅力創出》

- ・ アマ無線を始めることへの「しきいの高さ」が低減される
- ・ 従免を取り、とりあえず開局しても「何をしたいかわからない、長く続かない」という脱落要因を解消し、長続きする趣味としていける
- ・ アマ無線のコミュニティにスムーズに、安心して入っていくことができる

《シニア層の活動の幅だし》

- ・ 新しい年代、会員と触れ合い、後進の指導を通じて友人・仲間関係を作り上げていくことにより、これまで自分が体験してこなかったアマ無線の楽しみ方を自身で開拓していくことができる

《JARL の多様性包摂に向けたアクション》

- ・ アマ無線界でマイノリティとなっている、例えば女性が安全な先輩、コミュニティを見つけていく、作っていくことが支援される

4 実現に向けたアクション

概ね以下1～4のステップで、2024年内の立ち上げを目指す。

【1 アドバイザリーボードの創設】（～2024/10）

JARL 本部により「メンター・メンティーアドバイザリーボード」とその事務局を設置する。目的は制度設計と運用立ち上げ、コアとなるメンターの選定・依頼など。できれば教育、人材育成等の有識者に参加いただき、制度開始後は継続してボードメンバー委嘱することを視野に入れる。

【2 メンター選定】（～2024/10）

メンターは自薦の登録制とする。並行して、アドバイザリーボードはすでにクラブ局などを中心にコミュニティ創設、初心者・若年者育成などに先進的に取り組んでおられる方や女性 OM など、メンターとしてふさわしいと思われる会員を積極的に発掘し、メンターとして中心的役割を担っていただけるよう折衝する。可能な方にはシニアメンターとして、他のメンターの指導的役割を担っていただく。

メンター登録時には活動地域、時間、可能な支援の種類・内容、その他の条件などについて申請するものとし、マッチングに利用する。基本は対面可能なペアを想定するが、地域や要件により、通信主体のペア、さらには JARL 本部（シニアメンター）とのペアも可能とする。

さらに、メンター自身が問い合わせや支援を求めたい場合には、シニアメンターやアドバイザリーボードが対応できるようにする。

【3 制度立ち上げ】（2024/10～2024/12）

JARL の既存会員を含め、新入会員（初心者、若年者）に制度をアピール、早期にメンター・メンティーのペアを立ち上げる。メンタリングの状況はアドバイザリーボードで常時モニタリングし、必要に応じてシニアメンター等による支援、介入を行う。万一トラブルが生じた場合は、双方の安全を確保するための介入を行うが、その限界と責任については予め整理しておく必要がある。

【4 1期生の卒業】（2025/6～2026/12）

メンター・メンティーの関係性は双方が希望する限り継続するが、メンティーが「一人前になる」ことへの期待を含めて、半年ないし1年で公式な制度としては「卒業」とする。卒業したメンティーから、新たにメンターが生まれていくことが期待される。

5 コスト

- ・ メンター・メンティー制度そのものは無償ボランティアを基盤とするため、新たな費用は想定しない。
- ・ メンター登録、マッチング業務は既存の JARL 会員管理の拡張であるため、インパクトを見積もる必要がある。既存業務に与える影響は概算、1/10 以下と思われる。
- ・ アドバイザリーボード、およびその運営について、無償ボランティアを基盤とすることが可能であるかは十分な検討が必要である。提案者私見としては、JARL 会員であれなけれ、識見ある人材への委嘱を前提とするならば、ここに例えば年間百万～程度の費用は必要であろう。

- ・ メンター用の資材（チラシやパンフ、ハンドブックなど）もノウハウを蓄積し、将来的には必要と思われるが、当面は JARL 既存品を活用する。
- ・ 各地のメンター活動を取材し、好事例を発掘することが必須である。この点については既存の JARL 広報の枠を超え、CQ 出版社の協力に期待したい。

6 関連各社等に期待される役割

ステークホルダーとして、以下のような団体に対して支援を要請し、エコシステムを構築することが可能である。

A 電波行政

国、自治体の電波行政においては、「ワイヤレス人材の育成」という観点から、低コストかつシニアパワーを活かした事例として着目

B JARD

メンターに働きかけて上級資格の取得など、育成・資格取得のチャンネルとして着目

6. 参考情報（任意）

なし

（以上）